平成２６年度　国立赤城青少年交流の家　教育事業

あかぎサンサンかがやきキャンプ

報　　告　　書

国立赤城青少年交流の家では「あかぎサンサンかがやきキャンプ」を，８月３０日（土）～３１日（日），１１月２２日（土）～２３日（日），１月３１日（土）～２月１日（日）の３回の実施をした。

この事業は，普段体験することのできない活動をすることで，物事に対する興味関心を深めるとともに，チャレンジすることの楽しさを学ぶ。障がいのある子が，それぞれの地域で同年代の子と共に学び育つ機会の足がかりをつくる。また，スタッフも講義・実施・ふりかえり等のプログラムを経験することにより，障がい者への理解や実践的な指導力を身につけることができるようにすることを目的として実施した。

【１回目実施：８月３０日（土）・３１日（日）】

１回目は，夏休みの最後に設定し，夏の最後の楽しい思い出をつくることができるように期日を設定した。

３０日はサポートスタッフのみでスタッフトレーニングを行った。まずは，東京福祉大学の立松英子先生を講師に迎えて，サポートスタッフを対象とした講義を行った。

内容は「知的障害を伴う子どもの野外活動や宿泊行事における安全管理」「てんかんの基礎知識」と題して，障がいをもっている子どもたちのキャンプを行う際に気をつけることや指導・指示の仕方などについてお話していただき，サポートスタッフは障がいに対する知識や手法について学ぶことができた。その後，翌日の参加児童の受け入れに向けて，プログラムで行う魚の内臓の取り方の練習や使用会場の準備をし，翌日の安全管理や指導方法についてスタッフ間で共有した。

３１日は健常児・障がい児を交えてのデイキャンプを行った。最初に行ったはじまりの会では，自己紹介をしたあとに手遊びや鬼ごっこなどのゲームを行い互いの気持ちを和らげた。この段階で，サポートスタッフと参加者とはかなり打ち解けていて，葉っぱで遊んだり，バッタを顔に乗せて遊んだりしていた。

そのあと，会場を交流の家の山のキャンプ場に移しマスのつかみどりを行った。はじめは，いけすの中で動いているマスに，ビックリしている子，怖がる子，目をキラキラさせている子など反応は様々であったが，時間が経つに連れてみんなで楽しみながらマスを捕まえることが出来た。捕まえたマスは，内臓処理から串打ち・焼きに至るまで子ども達が自分で行った。前日のスタッフトレーニングの甲斐もあり，スタッフがわかりやすく説明していたので，ケガなく安全に行うことが出来た。その後，水遊びやスイカ割りや木の名札作りなど自然と触れ合いながら，自由にゆったりとした時間を過ごしてデイキャンプは終了した。

〈事業の様子１回目〉

はじめは緊張していたけれど，
ゲームですぐに打ち解けていた。

はじめてのマスにビックリ。
おびえながらも頑張っていた。

内臓も自分達でキレイに取り除く。
中には，数匹チャレンジした子もいた。

焼きたてはこんなにもおいしいのかと
感動していた。

世界にひとつの木の名札作り。

マスだけでなく色んな物を焼いてみた。
火を使う活動は子どもに人気だった。

【２回目実施：１１月２２日（土）～２３日（日）】

２回目は，健常児５名と障がい児６名の計１２名の参加者と，１泊２日のキャンプを行った。秋も深まり，肌寒さを感じながら秋を満喫できるように期日を設定した。また，会場として群馬県伊勢崎市にある「伊勢崎市青少年育成センター（以下，育成センター）」を使わせてもらった。今回のテーマとして，グループ活動を行うことで周りの友達に思いやりをもって接することを心掛けた。

２２日のはじまりの会では，じゃんけんを用いたゲームや葉っぱをかけ合ったりしながら，参加者同士の交流を計った。葉っぱと触れ合う様子はとても生き生きしていた。

２２日は食事作り（焼きいも作り・おっきりこみ作り）に重点を置いて活動した。参加者は自分達で落ち葉を集め，焼きいもの下ごしらえをして，焼きいも作りを楽しんでいた。そのあと，会場を屋内に移し，おっきりこみ作りを行った。今回のポイントとして，自分達で麺を打って調理する事をプログラムに取り入れた。参加者はスタッフのアドバイスを聞きながらとても積極的に取り組んでおり，自分達で食事を作れたことにとても満足そうだった。この頃にはグループでの活動にもだいぶ慣れた様子で，参加者同士での自発的な交流が見られた。

夕飯を食べた後は，育成センターの裏にあるグリーンパークで夜の公園探検を行った。子ども達は普段遊ぶことのない夜の公園に，大変興奮している様子だった。

２３日は育成センターから徒歩１５分程にある「華蔵寺公園」に木の実を探しに行った。地図を基にグループで行く先を話し合い，広い園内を自由に散策していた。

そして，そこで拾ってきた木の実を使ってオリジナルのフォトフレームを作った。思い思いの作品を作って楽しんでいた。

〈事業の様子２回目〉

落ち葉を集めてのゲーム。焼きいもの準備も兼ねてたくさん集めた。

落ち葉で焼きいもづくり。
みるみる大きくなる炎にビックリ。

群馬の郷土料理　おっきりこみづくり。
麺は粉から自分達で作った。

普段は行けない夜の公園を探検した。
みんなが一緒なら怖くないね。

宿舎から公園まで自分達で歩いて
お出かけ。紅葉がとっても綺麗だった。

公園で拾った木の実で、オリジナル
フォトフレーム作りをした。

【３回目実施：１月３１日（土）～２月１日（日）】

３回目は，健常児５名と障がい児５名の計１０名の参加者と，１泊２日のキャンプを行った。会場として群馬県前橋市にある「群馬県青少年会館（以下，青少年会館）」を使わせてもらった。今回のテーマとして，お餅つきの体験を通して，日本の伝統文化に親しむとともに参加者同士の交流を深めるものとした。

３１日はトランプや葉っぱを使ったゲームをして，緊張気味の参加者同士の交流を計った。とても寒かったが，ゲームを通して参加者同士の仲は深まっている様子だった。

室内に入ってから，翌日のお餅つきの準備を，米を研ぐところから自分達の手で行った。加えて，「お餅が何から出来ているのか」「お餅つきに使う道具は何か」などをクイズ形式で参加者に指導した。

夕飯を食べた後に，青少年会館の駐車場で星空観察を行った。この日はとてもキレイに月が出ていて，子ども達はとても興奮していた。

１日は朝からお餅つきを行った。車椅子等のハンディキャップを抱えた子もいたが，積極的につき手をしていた。人数的には二臼で行うことが望ましいが，サンサンかがやきキャンプ参加者・スタッフ全員が気持ちを一つにする活動を狙いとしたので，一臼のみで行った。みんなで一つの臼を囲むことで，とても賑やかに，そして楽しく餅つきをすることが出来た。お餅をつき終わった後に自分達で好きな味付けをし，昼食を兼ねた試食を行った。つきたてのお餅の味は子ども達にも大好評であった。

その後，青少年会館から「押し花のしおりづくり」のプログラムを提供していただいた。自分の分だけではなく，家族の分も作りたいという子が沢山いたので，家族への思いを込めてオリジナルのしおりを作っていた。

〈事業の様子３回目〉

みんなでゲーム。初めて参加の子もすぐに打ち解けていた。

お餅つき事前準備。お餅の知識を学びながら，準備行った。

もち米を自分達で研いで，水加減も参加者自身で調整した。

寝具などの使用したものは，自分で責任をもって片付けた。

みんなでお餅つき。つきから味付け
・洗い物まで自分達で行った。

「押し花のしおりづくり」好きな
花を選んで綺麗に仕上げた。

全３回の事業を終えて，「障がい児の体験活動の機会が健常者に比べてどうしても少ない」という声が参加者の保護者からたくさんあった。また，保護者からは「（参加者を）預けている間，少しの時間だけれど自分の（または家族の）時間ができるので，心にゆとりが持てる」といった声もいただいた。

このことからも，国立の青少年教育施設として，障がい児の体験活動について啓発普及をしていかなければならないと感じた。

担当：事業推進室　利用チーム　江原　智淳